

第2版のはじめに

世の中にはこんなにも多くの情報が溢れているのに、科研費の申請書をどのように作り上げていくのかに関しては情報が少なく、ましてや実物の申請書の見本などネットで検索しても数件しか見つからない。それならと、自分たちの失敗例までもさらけ出して作りあげたのが、この本の第1版である。これは予想外の好評で、科研費獲得に悩む多くの研究者に少しあは役に立てたのかと思う。

このような本を出した手前、「お前は採択されたのか?」と諌る人も多いだろう。正直、今年度（平成23年度）はなんとしてでも採択されなければならないと、かなりのプレッシャーだった。幸いにも科研費が大幅に増額されたこともあって、なんとか採択された。今年度は科研費の一部種目が基金化された最初の年であり、この改革された制度を自ら体験できるのを非常に嬉しく思う。

さて、平成23年度は科研費の総額が前年度より大幅に増額されたり、一部種目での基金化が実施されたりと、科研費の制度や内容に非常に大きな変化があった。そのため、第1版の発行から1年しか経過していないが、必要な部分を改訂することになった。申請書のフォーマットや記入する項目については変更された部分はないので、今回の改訂で3章と4章は第1版とほとんど変わっていない。特に大きく変わっているのは1章の科研費の概略の部分だ。平成23年度の科研費審査結果の発表を踏まえて、科研費の現状について解説し、基金化によってどのように変わるのが詳しく説明した。また科研費はただ1つの種目しか応募できないのではなく、種目の組合せによって複数の応募が可能であるので、これについても詳しく解説した。さらに何人かの方に科研費にまつわる経験談を書いてもらつて、コラムを追加した。実体験に勝る良い例はないと思うからだ。快く経験談を書いてくれた国立循環器病研究センターの海谷啓之くんと森健二くんには感謝している。

第1版の発行後、いろんな人からこの本の内容に関する意見を頂戴し、感想を聞かせてもらった。特に若い研究者の方に科研費申請にこの本が役に立ったと言われたことは、すごく嬉しかった。今後もこの本をよりよくするために、遠慮なく意見を聞かせて欲しい。この本が科研費獲得のための参考書として、多くの方に役立つように願っている。

この改訂作業を行っていた3月11日に、東日本大震災があり大変に大きな被害をもたらした。震災に見舞われた地域の大学・研究所も大きな被害を受け、震災前の状態に復帰できるには、かなりの年月が必要だと言われている。復興の財源確保のため、6月30日に交付決定された科研費も減額変更が行われる可能性があり、そのために交付される研究費は分割払いされることになった。極めて異例の事態だが、被災地の復興のためにはやむを得ないことかもしれない。一日も早い復興を祈ります。

2011年7月 久留米大学分子生命研にて

児島将康